

## 第 32 回移住者インタビュー

『自分自身のやりたいことが見つかるまちだと思う』

漁師 須田 大翔 さん



須田 大翔（すだ ひろと）さん  
東京都出身  
漁師（カキ養殖）

インタビュー実施日：2023年2月13日

ご出身はどちらでしょうか。

生まれも育ちも東京都足立区です。大学も、東京にある大学に通っていました。

移住をしようと思ったきっかけを教えてください。

大学4年生で就職活動が終わった頃に、池袋で「漁業就業フェア」というのをやっていました。大学で観光学部に所属していたこともあって、旅行会社から内定をいただいていたんですけど、前から漁業というか、職人気質の職業に憧れを抱いていたので、そのフェアに行ってみたところ、岩手県のブースに今お世話になっている親方がいて、そこでいろいろと話を伺い、自然豊かな陸前高田で、漁業を生業にしていけたらとても良いなと思い、移住して漁師になることを決めました。

漁業就業フェアでは、今の親方さんとどのような話をされたのですか。

親方からは、カキ養殖はやはり他の漁業や養殖業に比べて安定して収入を得られるなどのお話をされました。そういったことだったり、もともと自分は自然が好きなので、海で仕事ができたりすることも魅力的だなと思いました。

旅行会社に内定が決まったことで、心的に余裕が生まれたので、本当に自分がやりたい仕事がある何か探してみようと思い、この漁業就業フェアに参加しました。実際、人からいろんな話を聞いてみないことには始まらないし、漁業だけじゃなくて他の仕事も探して、自分が心からやりたいと思ったものがあれば良い、それでなかったら内定をいただいていた企業に就職するんだという気概でいました。そのような中で、今の親方に出会い、漁業の道に進めたことは本当によかったと思っています。

移住をされるまでにどのような準備をされてきましたか。

いや、特に準備は何もしていないですね。身一つで移住してきたような感じです。

漁師になるにあたって、何か面接のようなかつちりしたものがあってもなく、親方に「(漁師を) やりたいです」と言ったら「わかった」というような感じで、とんとん拍子で進んでいきました。

準備というほどではないですけど、本格的に移住する前に、まちの様子を見ようと1回陸前高田に来たことはあります。そもそも移住するまで陸前高田には来たことがなく、東日本大震災が起こって初めて市のことを知りました。当時は中学生でした。

奇跡の一本松を見たり、震災当時どういことがあったとか、何をしていたかとかをいろいろ見て聞いて回ったりしました。それに、広田湾に並んで浮かぶカキいみだ筏もそのとき初めて目にし、「自分もこの場所でこんな風に漁業をやっていけたらいいな」と、期待感が膨らんだのを覚えています。

移住をする上での不安はありましたか。

それはもうありました。やはり不安の方が大きかったです。今でこそ、自分のカキを出荷させていただいていますけど、当時は、いつ自分のカキが出荷できるかわからない状態でしたし、地

元を離れて1人でやっていけるのかという不安もありました。

今は自分のカキを出荷できるようになり、移住当初に抱いていた不安は軽くなっていますが、それでもまだまだ不安なことはいっぱいありますね。

移住することに対して、家族からいろいろと意見は言われましたけど、とにかく自分が本当に漁業をやりたいんだっていう気持ちを伝えました。今では、たまに家族あてに自分が養殖したカキを送ることもしていて、家族から「美味しかったよ」と言ってもらえるようになりました。

### 現在のお住まいについて教えてください。

市営住宅を借りて住んでいます。一人暮らしなんですけど、十分すぎるくらい部屋が広くて、不自由のない生活を送っています。

市営住宅に住んでいると、周りの方々の心の温かさが身に染みて感じます。仕事柄、帰りが夜中になってしまったときに、市営住宅の廊下（通路）でご近所さんと会ったときに、「ちょっと待っててな」と言われ、お惣菜などをお裾分けしていただくことがありました。東京にいた頃も、そういう近所付き合いは少なからずありましたが、人の心の温かさみたいなところで言えば、陸前高田の皆さんは本当に心優しい方々だなと思います。一人暮らしだから余計そのように感じるのかもしれない。



〈ウニの殻剥き作業に奮闘する須田さん〉

**陸前高田市に移住してから印象深かった経験や思い出はありますか。**

やっぱり、自分が育てたカキを始めて出荷したときが一番印象に残っていますね。2020年4月に陸前高田市に移住して漁業を始めて、初めてカキを出荷したのが2021年11月だったので、約1年7カ月ですね、自分の努力の成果が報われたような気がしました。

自分自身、実はあまり生ガキを食べられなくて、自分で育てたカキは味噌汁に入れたりお吸い物にしたりして食べています。

**地域内での移動手段について教えてください。**

もっぱら車です。陸前高田市に移住してから車を購入しました。

気仙管内の道路を走ってみて、個人的には特に何も思うことはなく、快適に走ってはいますね。ただ、やはり今のような冬の時期は、さすがに路面も凍っていて危ないなどは思うので、注意して走るようにしています。

**須田さんの現在の活動について教えてください。**

漁師として活動していて、主にカキの養殖をやっています。

今の時期（冬）の1日のスケジュールは、基本的に早朝から活動を開始しています。5時に出荷するので、発泡スチロールにカキを入れる箱詰め作業をひたすら行います。7時ぐらいになったら朝ご飯を食べます。その後は、水揚げされたカキを選別する作業を行います。水揚げされたものは固まっているものが多いので、それを一個一個に仕分けします。だいたいお昼ぐらいまで選別作業に費やし、その後は、一個一個のカキをネットに入れて、海にまた戻します。一旦引き上げたカキをまたもう一度海に戻すことで、もう一回り成長させます。一日の流れはだいたいこのような感じです。夏になると、カキに付着しているいろんなゴミをお湯に浸けて取る作業も行います。

朝5時から動き出すので、当然それよりも前には起きなければなりません。今でこそ慣れましたけど、漁業を始めた頃の頃はやはり大変でした。それから、2021年の夏（移住2年目）を過ぎた頃から本格的に忙しくなってきた、365日とまではいかないけどほぼ毎日活動しています。自分のプライベートの時間をちゃんと確保できていたのは、移住してきた年（2020年）とその次の年（2021年）の夏頃までで、その頃は趣味でサーフィンをやっていました。

**須田さんがカキを養殖される上で、何か工夫しているポイントはありますか。**

カキ養殖は、ホタテの貝殻を海中に吊るし入れて、カキの幼生を殻に付着させること（これを「採苗」という）から始まります。その後、採苗した稚貝が成長していくと、ホタテの殻に何個も何個もカキのタネが付くようになります。今度は、そのタネを見極めて削っていく作業になるんですけど、その作業を大事にしています。それですべてが決まると言ったら大袈裟ですけど、形が良いものや、丸みがあるようなタネを選んで削るようにしています。でもこれは、自分だけではなくてどの漁師さんも気を配って大事にしているポイントだとは思っていますね。

須田さんの思う陸前高田市のおすすめスポットを教えてください。

高田松原運動公園の一带です。野球場やその近くにある公園が好きですね。

あとは、碁石海岸もとても好きです。最近あまり行けていないですけど、ボーっとして海を眺めるのが好きで、前はよく行っていました。



〈須田さんのおすすめスポットである「碁石海岸」〉

今後活動していく上での目標を教えてください。

まだまだ未熟ではあるので、一つ一つできることを増やしていきたいです。それから、少しでも早く自分の作業小屋を持って、自立してやっていけるような体制を整えていきたいです。今はまだ、親方の小屋を使わせてもらっていて、親方の力を借りながらという状況です。自分に対して一から教えてください、自分のために思っているいろいろと動いてくださったりして、周りを見てもこんなに親身になって自分を育ててくれる方は他にはいないと思うので、親方には本当に感謝しています。親方のためにも、早く一人前の漁師になりたいです。

移住しようと考えている人に対してメッセージをお願いします。

陸前高田は、何よりも自然が豊かで、心の温かい人たちがばかりです。それに、震災も経験して前を向いて進んでいる人が多いので、移住して住んでみて本当に良いところだなと思っています。自分自身がそうであったように、自分が何をしたいのか、どんな仕事に就きたいのか、自

分自身のやりたいことが見つかるまちだと思うので、まずはぜひ一度来てみてください。